

人首

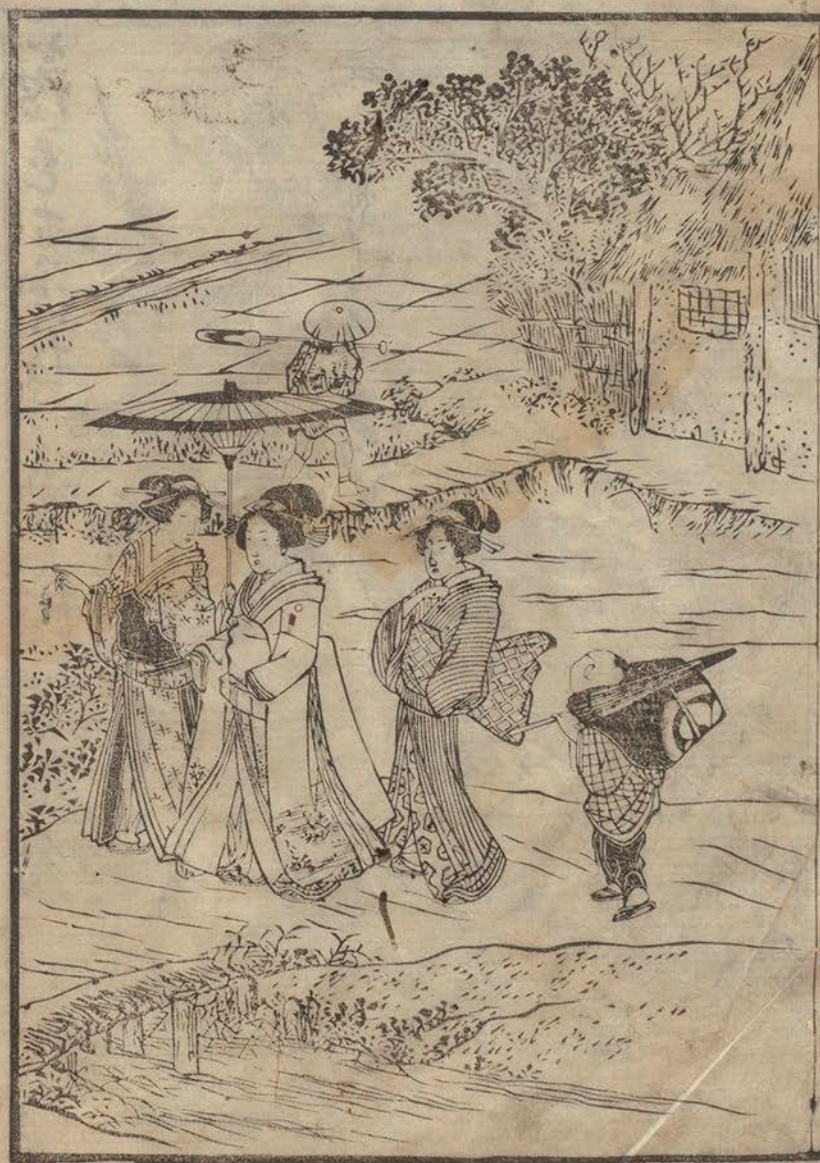
女訓文庫

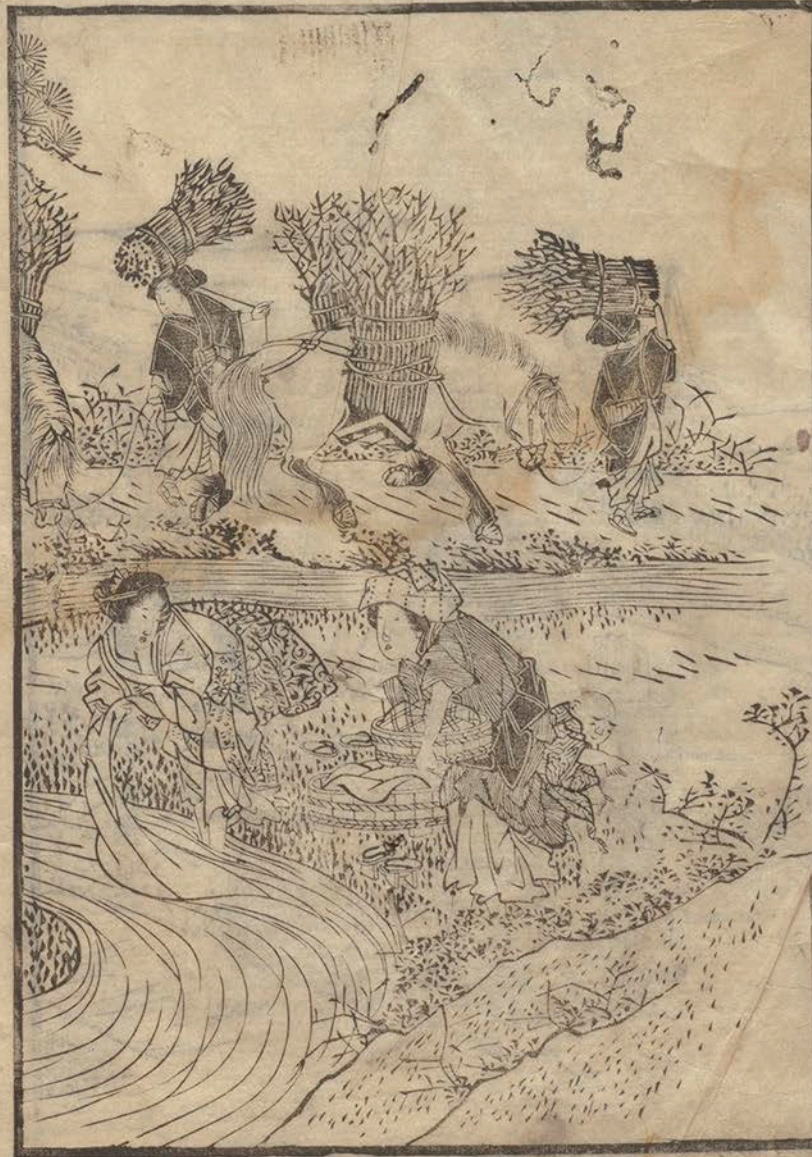
世は婦女の能く備ふ書籍めま
さうし本は形廣く行ると雖も今この
書は勝る本ありし古説と和解て蘇
今世に通じの文と集り繪も亦古風を
省て今操と専らに圖と手紙昔古の
童女の論あり終に古本置りて
時行儀教しは
の内室の奥達
の奇必也
木さる



七
鶴
龜
杏
竹
松



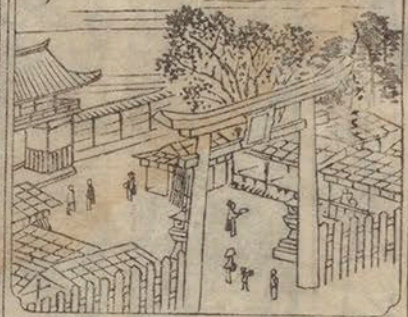




祇園霊社

後檢遺神祇 長原 巨樹

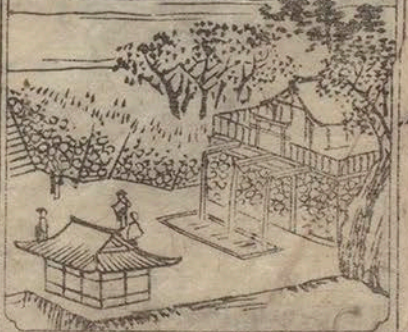
ちんぼ ちんぼ
千載 基長
山崎
いづ
えん



音羽瀑布

新橋古今雅彦

せきつれぬ
たきの
あつと



高老寺

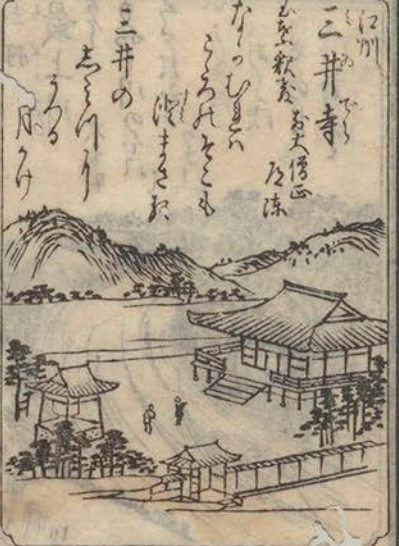
秋興

乙女
あつと
あつと



三井寺

三井の
あつと
あつと



城山

城山
あつと
あつと



木曾

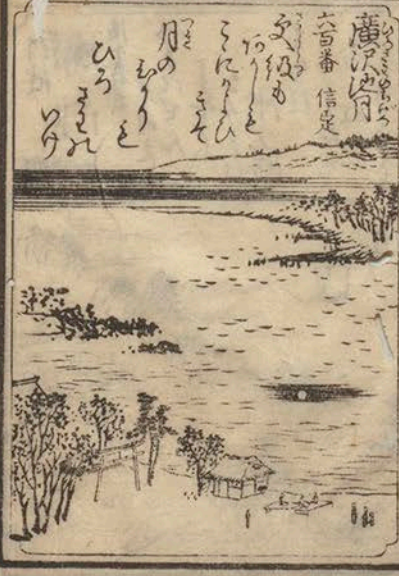
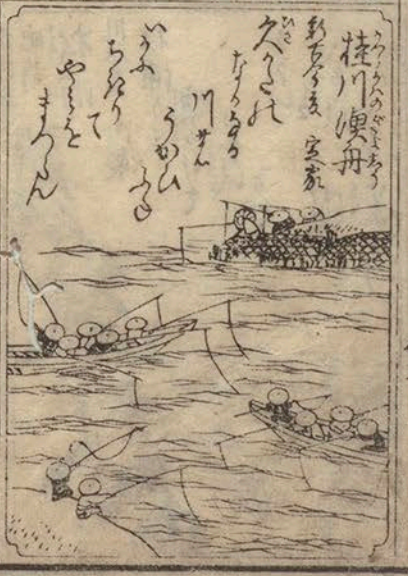
木曾
あつと
あつと



佐野

佐野
あつと
あつと



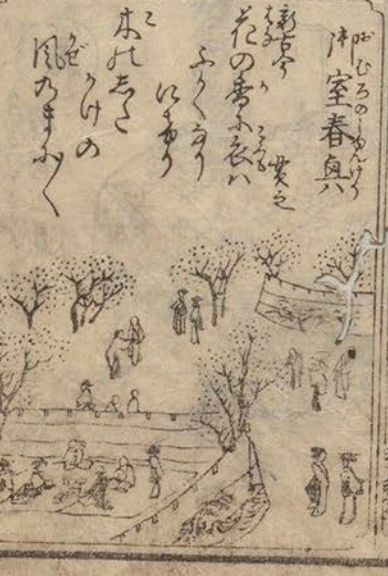


龍山松樹
 勢多川
 勢多川
 勢多川
 勢多川

桂川便舟
 勢多川
 勢多川
 勢多川
 勢多川

淀川新公
 勢多川
 勢多川
 勢多川
 勢多川

廣沢信定
 勢多川
 勢多川
 勢多川
 勢多川



双岡初雪
 勢多川
 勢多川
 勢多川
 勢多川

勢多川
 勢多川
 勢多川
 勢多川
 勢多川

愛宕白雲
 勢多川
 勢多川
 勢多川
 勢多川

沖室春興
 勢多川
 勢多川
 勢多川
 勢多川



右 山色赤人
わが方のうん
まふら
のこを
あ



おのがありかと
人よきまつ



右 伊勢
三輪のひな
まらん
やぐぬる
あ



右 備前通昭
世の中に
極楽の
あ



右 備前通昭
我らの
あ



右 備前通昭
み
あ



持統天皇
まほろく夏
白舟の
夜や
天の
あ



柳本入磨
あ
山色
尾の
志
あ
ひ
あ

右 紀友則
ゆづるといふれ

右 藤九郎
藤九郎
おつとあつと
おつとあつと



右 小舟小町
信のまは
おつとあつと
おつとあつと

やまべのわらひ
ふさ赤人

回子れ油よ
おし出く



見
ま
白妙の
おれろ招ふ
おはろりは

た 中納言藤



右 中納言朝忠
朝忠
おつとあつと
おつとあつと



右 中納言朝忠
朝忠
おつとあつと
おつとあつと



ひんご
おつとあつと
おつとあつと

真山よお紫
猿丸さま



おはろりは
おつとあつと
おつとあつと

右 右大臣 藤原 経国
かくらるる
なまじり
らんや
世の中は
つらみくも
十の月九日



九 九郎 藤原 経国
ゆきや
ふゆ
今一巻の
さうまかき



右 右大臣 藤原 経国
子の目す
のへい
小巻はかり
ふたのうらみ
何れか



中納言 家持
少くも
後さる



橋
あまの
夜を
更ふらる

そと
あま
か
琴の
た
右 右大臣 藤原 経国



ひ
み代
杖
つ



風
影
お



あま
安倍 仲磨
天
あ



あ
え
ま
出
み
月



右
土生忠賢
あつとく
かまの神
身とまじ日
中う勢たかん

た
平
盛
あつとく
かまの神
身とまじ日
中う勢たかん

右
中務
秋の
つとく
あつとく
かまの神
身とまじ日
中う勢たかん

秋の
つとく
あつとく
かまの神
身とまじ日
中う勢たかん



僧正遍昭

天津風

吹

吹

し女の

志



陽成院

筑

峯

あつとく

の川

あつとく

測



今日 石 唯 春 風 一 時 来
 今 日 石 唯 春 風 一 時 来
 今日 石 唯 春 風 一 時 来
 今日 石 唯 春 風 一 時 来

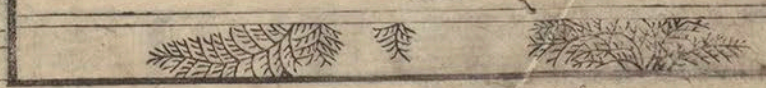


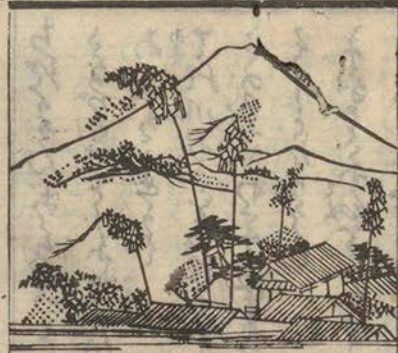
光 孝 天 皇 出 雲 之 聖 君 我 衣 子 衣 子 衣 子
 光 孝 天 皇 出 雲 之 聖 君 我 衣 子 衣 子 衣 子
 光 孝 天 皇 出 雲 之 聖 君 我 衣 子 衣 子 衣 子

赤 辰 今 月 万 歳 東 株 尖
 赤 辰 今 月 万 歳 東 株 尖
 赤 辰 今 月 万 歳 東 株 尖
 赤 辰 今 月 万 歳 東 株 尖



河 原 大 臣 唯 由 人 我 衣 子 衣 子
 河 原 大 臣 唯 由 人 我 衣 子 衣 子
 河 原 大 臣 唯 由 人 我 衣 子 衣 子





七夕 津河
 得 少年
 竹 半 上
 柳 花 夜
 風 夜
 及 明
 不 禁
 天の川
 息 鳥 籠 格 連 活
 住 来
 めるすのうんぞ
 きくありなふ



任 勢
 難 波
 み 菊
 わ 世
 ち 世
 や 世

七夕 津河
 得 少年
 竹 半 上
 柳 花 夜
 風 夜
 及 明
 不 禁
 天の川
 息 鳥 籠 格 連 活
 住 来
 めるすのうんぞ
 きくありなふ



藤原 敏 行 朝 臣
 任 の 内 ね
 波
 美 妙
 人 肉 之 花

ちぢんらんあふぞつき
うらなれとさなほび
あつちをさふこし
てれ川のほとりなほ
そのまやわすしねま
んこつらつち
ままをふらむらんや
うまらんをむしあまの
うまらんけり
舟の人あまのこをた
らぶさうねの権い
そつらまひ
天川をながらんらん
あつちのそまをさ
らぶらんをえらん



天川ながゆ月をふ
こつらし梅をさふ
ひらりりりりり
七夕の連よ夜のなほ
かくたつらわらふの
けつふのいと
たつちのそまをさ
らんをさつちをさ
らん
あつちをさつちをさ
らん
まづはまをさつちをさ
らん
あつちをさつちをさ
らん
あつちをさつちをさ
らん



源氏音の圖引致

桐壺

白鳥
 藤原
 朝野
 藤原
 朝野
 藤原
 朝野

藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野



菅家

菅家

菅家

菅家

菅家

菅家



源氏音の
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野



源氏音の
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野



源氏音の
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野
 藤原朝野



三條右大臣

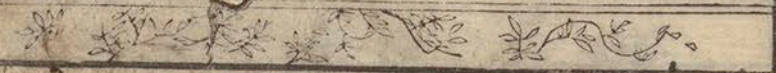
三條右大臣

三條右大臣

三條右大臣

三條右大臣

三條右大臣



松風
身をうて
ひらき
あさか
せうに
いふ松風



海雲
くし
世帯
くも
おかし
しんやま



新更
ん
あさ
あさ
あさ
あさ



壬生忠岑



有明乃
つま
く
見
別
あ
う

乙女
あ
あ
あ
あ



玉首
あ
あ
あ
あ



あ
あ
あ
あ



坂上是則



あ
あ
あ
あ

<p>花の梅枝 うらやみ うらやみ あはれ</p>	<p>今とく寝れ ぬとも まはのり あはれ</p>	<p>さあとの あはれ うらやみ あはれ</p>
---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------



藤原真風
誰をも
せん
高砂の
松もひらけ
友なしくくよ

<p>花の梅枝 うらやみ うらやみ あはれ</p>	<p>今とく寝れ ぬとも まはのり あはれ</p>	<p>さあとの あはれ うらやみ あはれ</p>
---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------



紀貫之
あはれ
古の
花の
あはれ

白雲
おむつ
ついで
あけぬ
お梅



山あり
池の
その
お梅
お梅



作
そ
ひ
ふ
そ



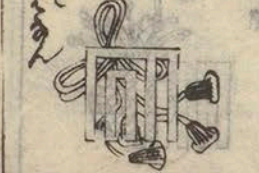
梅娘
梅娘の
さ
お梅



梅
お梅
お梅



徳角
あ
お梅



忘
思
夢
人の命
お梅



参議
お梅
お梅
お梅



早蕨

この早蕨
は、山に生ずる
ものなり
春の人の
あつちつち
あつちつち
あつちつち



鶯

鶯のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま



東山

東山のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま



平氣盛

平氣盛のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま

おやうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま

我がうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま

おやうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま

人のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま



浮舟

浮舟のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま



蜻蛉

蜻蛉のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま



魚

魚のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま



壬生忠見

壬生忠見のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま

我がうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま

おやうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま

人のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま

おやうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま
は、春のうらやま





右圖もろの源氏六十指の秋末丹
 香かり林は氏を汝のあまの備
 院の清時重頼院あつしと
 茶後に分るとるもへん式はを
 めりては兵をち小流り親世を
 たのう通花一たるは八月十亥
 の月御あふうりか流なるよまう
 酒度ありは世をやまけを測り
 くかよ流る流をくは午に
 非しやうしやうらうひありと翁
 言ゆ成ははきしるひ流流来
 り世もまのりなり

源氏六十指

あまの備

うらるんに

神

と

あま

末乃まらふ

海あまらふ

あまらふ

あまらふ

あまらふ

あまらふ

あまらふ

あまらふ

源氏六十指

右圖もろの源氏六十指の秋末丹
 香かり林は氏を汝のあまの備
 院の清時重頼院あつしと
 茶後に分るとるもへん式はを
 めりては兵をち小流り親世を
 たのう通花一たるは八月十亥
 の月御あふうりか流なるよまう
 酒度ありは世をやまけを測り
 くかよ流る流をくは午に
 非しやうしやうらうひありと翁
 言ゆ成ははきしるひ流流来
 り世もまのりなり

中納言敷

登見

後

あま

あま

あまらふ

あまらふ

あまらふ

あまらふ

あまらふ

あまらふ

あまらふ



めんろいふ子の粉塵は
 こんろくろまおすのり
 めんぎかりーろま
 みらん粉まきかす
 ここのま 粉まきかす
 ここのまのまひんまき
 ままひんまきかす
 粉まきかすかす
 んであきまの
 たいたふゆ
 んひんまきかす
 そまふまきかす
 いもまきかす
 まきかす
 んふまきかす



源重光
 風をよめる
 浪のまき
 おのまき
 んひんまきかす
 おまきかす
 んふまきかす

めんろいふ子の粉塵は
 こんろくろまおすのり
 めんぎかりーろま
 みらん粉まきかす
 ここのま 粉まきかす
 ここのまのまひんまき
 ままひんまきかす
 粉まきかすかす
 んであきまの
 たいたふゆ
 んひんまきかす
 そまふまきかす
 いもまきかす
 まきかす
 んふまきかす



大仲法徳賞初
 清うたのり
 湯たれ
 火の
 夜いれえ
 ひるた清つ
 物たれまきかす
 んふまきかす

さんごよまの
 まい 牡丹 十のめ
 らげ びんを ちまき
 えも きまを ひり
 むさ あつき ちさ
 らや りあ いのそ
 んや わさき
 ちまき ちまき
 さんごよまの
 ひまをうたーまき
 へあーかひなひけ
 んごよまの
 てあごひのひり
 さんごよまの
 仁給はて 換茶を 引ぬー



掛香之方

- | | | | |
|------|---|------|-----|
| 一 龍腦 | 八 | 一 梅仁 | 一 粒 |
| 一 麝香 | 六 | 一 丁香 | 一 粒 |
| 一 甘松 | 三 | 一 白檀 | 二 |
| 一 白檀 | 二 | 一 龍腦 | 一 |
| 一 沉香 | 一 | 一 菊花 | 八 |
| 一 麝香 | 二 | | |
| 一 沉香 | 一 | 一 丁香 | 八 |
| 一 白檀 | 一 | 一 甘松 | 八 |
| 一 麝香 | 一 | 一 龍腦 | 二 |
| 一 沉香 | 一 | | |
| 一 甘松 | 一 | | |



うきをたてうへをた
かきしなむはゆりて
おつるちりゆきこのり
付らるい煙をたてて
わりしき冬——
○おえぐり乃竹くらふ
兼乃菊松せんて
り——
○このちれつきのあ
どちうたありまてあゆ
○あふ乃ほたてのいさ
あんとせん——
又りほやとせんあふ
又まけまう——又藤乃
ちくまて落るなり



おもむき乃秘傳ひでん

○そんたむとそあろふ
下地とそくのいそく先
くりやも二るんあろふ
とあたいくりやすにめり
ハくそあ——
○そくあけあはなんか
と皇のけそとそあろふ
○そくそんちやと下そあ
をむめれあろふ二るん
そあろふにそあろふ
あろふにれりかそ乃あ
よろそんちかひひ
そむあろふ
○あろふそあろふ



諸病ありなく

○面て乃ちまきひに白濁
 きさけふひひし甘て糖り
 いつゆ万病治すなり
 又果ふまきひもゆあり
 ○糖乃ちろれしハ生煎糖
 を糖けし糖飯ちりひ
 又丸して糖すしゆ
 ○あふてそむるに黒大豆
 を糖めてせんしひんあり
 用べし又ゆるは糖すし
 ○糖めはるるもろもろ
 一の虫ありはんまありは
 ○あせぼよい糖り糖り
 やれうとん乃糖すまふま



丸

布の色ありおけて
 ○おきびハ密地糖乃
 粉を乳して糖餅さぬ
 ゆうてあふ目ほひら
 ねまなうてゆあり
 ○まもれハ布乃る
 とひかりは糖すあり
 又六月廿六日廿六日
 のひう糖りは糖り
 目よりあてまらゆ
 ○ひに棟乃突飯
 二あり付しつげ
 一の糖ありあふ
 ○あざの六月
 くりまやたあ
 ゆわあこせ



評美のまうりかんしんしんも
 のふと大田ふおしんしんも
 くらんかんしんしんも
 〇指のこれいんしんしんも
 〇守刀といふも三控の針を
 写ししるあかり家紋なり針
 の代り天の物まきまきまきの細
 ともいふ天のあつこのまき針
 針いし野かひんしんしんも



〇年といふも女婿の服竹
 〇指のこれいんしんしんも
 〇守刀といふも三控の針を
 写ししるあかり家紋なり針
 の代り天の物まきまきまきの細
 ともいふ天のあつこのまき針
 針いし野かひんしんしんも





金性 夫性 恒音 乙日 續名
 勇衛 為唯 永其 友友
 大寅 虎堂 一延 依依
 和花 律榮 英以 好盤
 益由 祐揚 用用
 補足 由未 出谷

大性 本陳 國有 職限
 冷今 久琴 余義 多
 經系 續約 覺光 欽
 竟季 冥來 義愛 茶
 元源 近谷 弓發 成
 勁岩 龜指 赤又 交
 潤半 玉束 首九 依
 士性 本陳 陸力 並
 每余 餘陸 律林 浪
 宅任 剛貞 定慶 友
 忠仲 德竹 六郭 達
 理利 里治 猪堂 丈
 大友 多赤 鉄金 珍
 業遠 傳長 良來 於





○男火女火...
 八九人...
 まつ...
 わひ...
 き...



○男本女本...
 せいの...
 せいの...
 き...



崇徳院
 氷を
 岩小
 滝川
 王様
 わん



和回
 槽
 久
 雲井
 お



○男火女水たふし子あ
 まていまるい夜あともあ
 つひふくせういんせ
 ともこりあおんかきませ
 わつがひくふさるまひ
 ○男と女とくやくは
 子三人あまを何事か
 ちりしよらつてか
 能くさく拍たのほき
 いちりひつぎ紙あうり



○男火女水たふし子あ
 ともふまら一掃公と海いめ
 一掃公の人あまのこあ
 二一掃公のひあまのひま
 ともあまのこあまのひま
 ともあまのこあまのひま

たふし子あ
 まていまるい夜あともあ
 つひふくせういんせ
 ともこりあおんかきませ
 わつがひくふさるまひ

秋風よ
 雲のく
 えと
 ままのり
 りれ山
 新乃さやさ
 月の

みまのの
 凍葉思
 淡路寫
 手鳥
 の
 声小
 貴夜寝
 とまれ
 図そり

○男水女水すまゝ子八分
 九人ふつておしと夫もさう行
 たらへん多うつしんのも
 つゝもほひをそぐなるのそ
 田よそひたのうらや



藤原の補佐
 今もさひいせ
 うききみ
 ちやみ
 今もさひいせ



○男水女水すまゝ子八分
 九人ふつておしと夫もさう行
 たらへん多うつしんのも
 つゝもほひをそぐなるのそ
 田よそひたのうらや



後惠法師
 おおりの
 夜毛とら
 寝居の
 ほきり



○男水女水大さあし子受
あしきやまきわうくせし
しあつてあつて
存中ふねねねねねね
身とてししししししし

○男水女水大さあし子受
ふつてあしきわうくせし
くま一氏侍とまうて
けいこてかろてあつて
しししの侍乃ちししし



田舎十悪の半

田の十悪くとの半半
かたのくさる半半
申比より夫あのみきり半
とけまうかう女の半
田つめ十めといふ半
女十七才子一の者男半
卯どしとあつて男卯より
辰巳午未申酉戌亥子
と女の子と十悪より
年のうすふわが十二を
くりてつあつていふ半
田の十悪くの支輝中より
家あつてあつても半あり
但の悪く存心とあつて

西行法師



あつてあつて
物を
あつてあつて
かろちろちろ
けのほろ

寂蓮法師

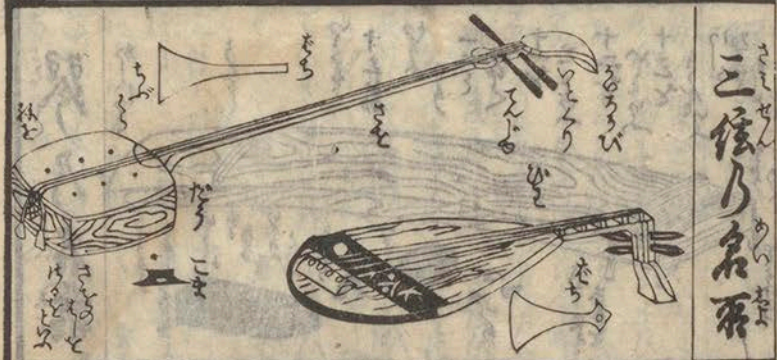


あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて
あつてあつて

十二月の和名
 十二月 初雪月 臘月
 十一月 初霜月 霜月
 十月 初涼月 涼月
 九月 初秋月 秋月
 八月 初月 月
 七月 初暑月 暑月
 六月 初水月 水月
 五月 初花月 花月
 四月 初卯月 卯月
 三月 初生月 生月
 二月 初梅月 梅月
 一月 初春月 春月
 六月 水月 風月
 常夏月 常神月



指中納言定房
 おぬ人を
 まの
 浦の
 夕なほ
 長くやのほの
 月もさるる



入道お大政大臣
 花さるる
 のの
 庭の
 雪さるる
 ぬりけるものは
 我身ぬるる

七月	文月	親月
八月	長月	月命
九月	長月	栞秋
十月	秋月	附月
十一月	霜月	雪月
十二月	四梅	春月
乙月	梅月	添月



うんこう日

正月 二月 いね
三月 四月 ろう
五月 六月 ろう
七月 八月 ろう
九月 十月 ろう
十一月 十二月 ろう

うけむけのり

木性
火性
土水
金性
守奉号と初秋

孫...
むま...
さく...



43987



不成物日之事

正月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
...

願者多うと也日



